

2019年6月16日(日)朝10:10～  
6月第3回共同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第2、映画会等  
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**主の権威**(29節)

聖書：マタイ 7章28～29節

<口語訳>

新約聖書10～ 頁

マタイ 7章28～29節

<新共同訳>

新約聖書12～ 頁

マタイ 7章28～29節

<新改訳第3版>

新約聖書12～ 頁

マタイ 7章28～29節<塚本訳>

新約聖書86～ 頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き  
によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓あるいは説教と表現される箇所です。

◇**マタイ7:28～29**は、「**御子イエス・キリスト様**」の山上での弟子たちへの説教の締め縲りの箇所で、「**権威持つ者**」、「**権威ある者**」のように、語られたことが記されています。

⇒「**主の権威**」は、主権を意味しますが、**マタイ**においては、「**王権**」が強調され、「**天の国の権威・公平に裁くお方**」、「**狭い門・細い道**」を通らせて「**神のいのちに至らせるお方**」です。

⇒最後の岩の上の家と砂の上の家の譬え話は、「**賢さ・知恵**」が、求められています。それは、識別力、洞察力とも表現できること見てきました。

⇒**マタイ7:24～27**では、条件は同じですが、賢い人は岩盤まで掘ることをする先見の識別・洞察ができ、風雨の家は耐えたのです。

本論；

◇本日、**マタイ書7章28～29節**から主の**使信**に **思い・心**をとめます。

◆**マタイ7章28～29節**；使徒**マタイ**は、**神の御子イエス・キリスト様**が「**主の権威ある者・権威を持つ者**」のように語り、「**神の知恵・識別力・洞察力**」を持って、**岩盤**いたるまで**忍耐強く掘れ**と語っておられます。

◇**28～29節**；塚本訳◆**岩の上、主砂の上**

「28 イエスがこれらの話を終えられた時、一しよに聞いていた群衆はその教えに感心してしまった。

29 自分たちの聖書学者のようでなく、権威を持つ者のように教えられたからである。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**28～29節**；「群衆はその教えに感心して」(28)、「自分たちの聖書学者のようでなく、権威を持つ者のように教えられた」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、語られました。

⇒今日は、「**マタイ7:24～29**」の枠の中で、**マタイ7:28～29**を見たいと願います。

◆「**主の権威**」は、同じ条件のもとで「**試練**」を与えます。

⇒病気や事故は、信仰の有無にかかわらず、人の生活の中において起こります。

⇒**マタイ7:24~29**では、「賢い人の家」に「襲いかかった」(25)と「愚かな人の家」に「うちつける」は、同じ語源のことばが使われ、条件が同じであることを「**御子イエス・キリスト様**」は、譬え話で語っておられます。

◆「**主の権威**」は、識別力や洞察力で事前に備えた人と備えがなかった人では結果に差ができることを示しています。「**主の権威**」が、有効に働いたのは、備えをしていた人においてでした。

⇒家の建築現場は、当時の条件から海辺や川の側が考えられるので、表面は砂地です。

⇒愚かな人は、砂地のまま家を建築し、賢い人は、大変な労苦を惜しまず、岩盤に至るまで深く掘って、岩・岩盤の上に家を建てたのです。大水、風雨が押し寄せ、叩きつけると差ができ、岩の上の家は倒れず、砂の上の家は倒れなかったのです。

- ⇒礼拝を毎週守っていても、守っていなくても、日常には、差がありません。
- ⇒しかし、ある人には門が狭くても入れますし、さらに細い道が続きますが、天の国に導かれ、神のいのちに至るのです。
- ⇒広い門や広い道を選択したら、わざわざ狭い門や細い道は避けるのです。結果、滅びに至るのです。
- ⇒愚かな選択をする場合、先輩や試練を経験した人の意見を聞かないのです。
- ⇒私は、三原でも、庄原でも、先輩や経験者の意見を聞かず、三原は、家が傾き、庄原は、シロアリの被害に苦しんでいます。
- ⇒三原は、専売公社の跡地にビルを建築するため、ボールリング調査をし、弱い地盤は18 mに深さまで掘らないと突き当たらないことが分かっていましたし、教会の土地は特に砂を埋め戻しに使ったことは事前に分かっていたので、ボーリングを勧めてくれる設計家もいたのです。今は、骨組みだけでも強くして、改修をしましょうと言う意見をもつクリスチャン設計士の設計図をいただきながら、鉄骨建ての

教会堂をベタ基礎の上に建てることになった  
のです。芸予地震が襲って来て、見事に傾き  
ました。1986年の建築ですから満33年です。  
次の建築期になっていますので、賢い建築を  
期待しています。

## 結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓(説教)**の箇所です。
- ◇**マタイ7:28～29**は、「**御子イエス・キリスト様**」の**山上**での**弟子たち**への**説教**の**締め**の箇所で、「**権威持つ者**」、「**権威ある者**」のように、**語られたこと**が記されています。
- ⇒「**主の権威**」は、**主権**を意味しますが、**マタイ**においては、「**王権**」が**強調**され、「**天の国の権威・公平に裁くお方**」、「**狭い門・細い道**」を通らせて「**神のいのちに至らせるお方**」です。
- ⇒最後の**岩の上の家**と**砂の上の家**の**譬え話**は、「**賢さ・知恵**」が、**求められています**。それは、**識別力**、**洞察力**とも**表現**できること**見**てきました。
- ⇒**マタイ7:24～27**では、**条件**は**同じ**ですが、**賢い人**は**岩盤**まで**掘**ることをする**先見**の**識別・洞察**ができ、**風雨**の家は**耐えた**のです。

◇教会堂建築だけでなく、「**御子イエス・キリスト様**」は、信仰の基盤である兄弟愛、個人の建設などを期待しておられます。

⇒大先輩である近江八幡でアシュラムセンターを開設され、「聖書から主に静聴し、語られた主に応答の祈りをする生活」を推進しようとされたEY師に学ぶことも、地盤の上に神信仰の土台を築くことでしょう。

⇒讃美歌249番の歌詞を味わいつつ讃美させていただきます。